

Dell Command | Configure

バージョン 4.2 ユーザーズ ガイド



メモ、注意、警告

① | **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

△ | **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

⚠ | **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2008 - 2019 年 Dell Inc. その関連会社。不許複製・禁無断転載。Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

1 Dell Command Configure 4.2 の概要	5
本リリースの新機能.....	5
その他の必要マニュアル.....	6
Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....	6
2 Dell Command Configure 4.2 の WSMT (Windows SMM Security Mitigations Table) コンプライアンス	8
3 Dell Command Configure 4.2 のグラフィカル ユーザー インターフェイスの使い方	9
Microsoft Windows システム内の Dell Command Configure へのアクセス.....	9
Linux での Dell Command Configure へのアクセス.....	9
Dell Command Configure のファイルとフォルダ Dell Command Configure	10
Dell Command Configure GUI へのアクセス.....	10
GUI を使用した BIOS パッケージの作成.....	10
設定オプション.....	11
セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードの設定.....	12
既存のパスワードを使用したセットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードのクリア.....	12
パスワード保護画面.....	13
autoon オプションの設定.....	13
bootorder オプションの設定.....	13
起動順序画面.....	14
起動順序への新しいデバイスの追加.....	15
起動順序タイプ.....	15
primarybatteryconfig オプションの設定.....	15
advbatterychargecfg オプションの設定.....	16
peakshiftcfg オプションの設定.....	16
keyboardbacklightcolor オプションの設定.....	17
Advanced System Management.....	18
非重要しきい値の設定.....	18
BIOS オプション検証.....	18
マルチプラットフォームパッケージまたは保存されたパッケージの検証.....	19
ローカルシステムパッケージの検証.....	19
BIOS 設定のエクスポート.....	19
SCE (.EXE) ファイルのエクスポート.....	19
値設定なしでの設定のエクスポート.....	20
ターゲットシステム設定.....	20
INI または CCTK ファイルの適用.....	21
Linux へのシェルスクリプトの適用.....	21
SCE ファイルの適用.....	21
パッケージ履歴内のログ詳細.....	22
ログファイルの表示.....	22
ログ詳細の削除.....	22

Dell Command Configure に関するフィードバック Dell Command Configure	22
4 Dell Command Configure 4.2 のトラブルシューティング事例.....	23
Dell Command Configure を実行するとエラーメッセージが表示される.....	23
32 ビットおよび 64 ビットの Windows 対応システムで Dell Command Configure を実行する.....	23
ユーザー アカウント制御が有効な Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10 で Dell Command Configure を実行する.....	23
Linux で Dell Command Configure を実行する.....	23
TPM のアクティブ化.....	24
Windows Preinstallation Environment (Windows PE) での SCE の実行が失敗する.....	24
デルへのお問い合わせ.....	24
5 サードパーティライセンス.....	26
全般的な免責事項.....	26
ライセンスの詳細 : Mini-XML.....	26
MiniunzZlibwapiZip (郵便番号)	30
PiePiece.....	30
getoptl.....	31

Dell Command | Configure 4.2 の概要

Dell Command | Configure は、ビジネス向けにクライアントシステムを構成する機能を提供するソフトウェアパッケージです。ユーザー インターフェイス (UI) またはコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、クライアントシステムを構成することができます。

CLI の使い方については、[Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals](https://www.dell.com/support/manuals/DELL/dell-command-configure-command-line-interface-reference-guide) の『*Dell Command | Configure Command Line Interface Reference Guide*』(Dell Command | Configure コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド) を参照してください。Dell Command | Configure では、次の Windows および Linux オペレーティングシステムに対応しています : Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10、Windows Preinstallation Environment (Windows PE)、Red Hat Enterprise Linux 6、Red Hat Enterprise Linux 7、Ubuntu Desktop 16.04、Ubuntu core 16。

① **メモ:** このソフトウェアは、Dell Client Configuration Toolkit バージョン 2.2.1 以降、ブランド名が Dell Command | Configure に変更されました。

トピック :

- [本リリースの新機能](#)
- [その他の必要マニュアル](#)

本リリースの新機能

本リリースの新機能は次のとおりです。

- 属性名と指定可能な値を更新しました

① **メモ:** 新しい名前と古い名前の全一覧を表示するには、次の手順を実行します。

- [[デル ナレッジ ライブラリー](#)] に移動して、ページ右上の [[検索ボックス](#)] で Dell Command | Configure ページを検索します。
- Dell Command | Configure ページで [[更新された属性名と指定可能な値の参照リスト](#)] をクリックします。
- 次の新しい BIOS 属性のサポート :
 - --FingerprintReader
 - --FingerprintReaderSingleSignOn
 - --SgxLaunchControl
 - --PowerOnLidOpen
 - --AmtCap
 - --PowerUsageMode
 - --Absolute
 - --IgnitionSwitchEnable
 - --IgnitionSwitchOnDelay
 - --IgnitionSwitchOffDelay
 - --IgnitionSwitchDebounceCycle
 - --IntelSpdSelTech
 - --AmdSmartShift
 - --PrivacyScreen
 - --WWanBusMode
 - --WdtOsBootProtection
 - --AmdTSME

```
--FrontPowerButton
--IoModule2
--IoModule3
--IoModule4
--ExpansionBay1
--ExpansionBay2
--ExpansionBay3
--DynBacklightCtrl
--NumLockLed
--GraphicSpecMode
--Thunderbolt
--VmdPcieSlot
--FanSpdAutoLvlonCpuMemZone
--FanSpdAutoLvlonPcieZone
--FanSpdAutoLvlonUpperPcieZone
--FanSpdAutoLvlonFlexBayZone
```

その他の必要マニュアル

このガイドに加え、[dell.com/dellclientcommandssuitemanuals](https://www.dell.com/dellclientcommandssuitemanuals) で入手できる次のガイドもご利用いただけます。

このガイドに加えて、次のガイドもご利用いただけます。

- 『*Dell Command | Configure Installation Guide*』(Dell Command | Configure インストール ガイド) では、対応クライアントシステムへの Dell Command | Configure のインストール方法について説明しています。このガイドは、Dell Command | Configure ダウンロードの一部として入手可能です。
- 『*Dell Command | Configure Command Line Interface Reference Guide*』(Dell Command | Configure コマンドライン インターフェイス リファレンスガイド) では、対応 Dell クライアントシステムでの BIOS オプションの設定方法について説明しています。

さらに、「リリースノート」ファイルは、Dell Command | Configure ダウンロードの一部として、および [dell.com/dellclientcommandssuitemanuals](https://www.dell.com/dellclientcommandssuitemanuals) から入手可能で、Dell Command | Configure のインストールと動作に関する最新情報が記載されています。

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

必要なドキュメントに、次のリンクを使用してアクセスできます。

- Dell EMC エンタープライズシステム管理のドキュメント — www.dell.com/esmmanuals
- Dell EMC OpenManage のドキュメント — www.dell.com/openmanagemanuals
- Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理のドキュメント — www.dell.com/esmmanuals
- iDRAC および Dell Lifecycle Controller のドキュメント — www.dell.com/idracmanuals
- Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理のドキュメント — www.dell.com/esmmanuals
- Dell EMC 保守ツールのドキュメント — www.dell.com/serviceabilitytools
- a www.dell.com/support へ進みます。
- b **すべての製品を参照** をクリックします
- c **すべての製品** セクションで **ソフトウェアおよびセキュリティ** をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - 分析
 - クライアントシステム管理

- エンタープライズアプリケーションです。
- エンタープライズシステム管理
- 公共機関向けソリューション
- ユーティリティ
- メインフレーム
- 保守ツール
- 仮想化ソリューション
- オペレーティング システム
- サポート

d ドキュメントを表示するには、必要な製品をクリックしてから、必要なバージョンをクリックします。

- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

Dell Command | Configure 4.2 の WSMT (Windows SMM Security Mitigations Table)コンプライアンス

Windows (SMM) Security Mitigations Table には、Windows オペレーティングシステム用に作成された ACPI テーブルについての情報が記載されています。ACPI テーブルは、Windows 仮想化ベースセキュリティ (VBS) 機能をサポートします。Dell Command | Configure は WSMT に対応していません。WSMT 対応 BIOS 搭載のデルクライアントシステムでプラットフォーム機能を設定する場合に使用します。

WSMT 準拠により変更になった動作は、次のとおりです。

- WMI/ACPI をサポートする互換性のあるバージョンの BIOS を搭載したデルクライアントプラットフォームで、設定機能を使用できます。プラットフォームの一覧については、[対応プラットフォームの一覧](#)を参照してください。
- システムが互換性のない BIOS を搭載している場合、使用できる機能は以下に限定されます。
 - Dell Command | Configure GUI で、すべての設定機能を表示できます。
 - Dell Command | Configure で、マルチプラットフォーム パッケージの SCE を生成できます。
 - Dell Command | Configure で、設定済みの値のレポートを生成できます。
 - Dell Command | Configure で、保存されているパッケージを開くことができます。

システムが互換性のない BIOS を搭載している場合、次の警告メッセージが表示される場合があります。

- インストール時：
このシステムには、WMI-ACPI 準拠の BIOS が搭載されていません。使用できる機能は限定的です。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。詳細については、『Dell Command | Configure Release Notes』(Dell Command | Configure リリースノート) を参照してください。
- CLI の使用時：
このシステムには、WMI-ACPI 準拠の BIOS が搭載されていません。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。
- GUI でローカルシステムのパッケージを操作しているとき：
このシステムには、WMI-ACPI 互換の BIOS が搭載されていません。ローカルシステムの SCE パッケージは、このシステムでは動作しません。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。
- SCE パッケージの実行時：
このシステムには、WMI-ACPI 準拠の BIOS が搭載されていません。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。

Dell Command | Configure 4.2 のグラフィカル ユーザー インターフェイスの使い方

Dell Command | Configure グラフィカル ユーザー インターフェイス (Dell Command | Configure GUI) には、Dell Command | Configure でサポートされている BIOS 設定がすべて表示されます。Dell Command | Configure GUI で実行できる操作は次のとおりです。

- クライアントシステムの BIOS 設定を作成できます。詳細については、「[GUI を使用した BIOS パッケージの作成](#)」を参照してください。
- ホストシステムの BIOS 設定との比較で、BIOS 設定を検証できます。詳細については、「[BIOS オプション検証](#)」を参照してください。
- カスタマイズされた BIOS 設定を、設定ファイル (INI または CCTK)、自己完結型の実行可能ファイル (SCE)、シェルスクリプト、またはレポートとしてエクスポートできます。詳細については、「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

① **メモ:** Dell Command | Configure コマンド ライン インターフェイス (CLI) で設定を適用する場合は、必要なファイル (INI、CCTK または SCE) を実行します。

① **メモ:** このシステムには WMI-ACPI 対応の BIOS がないため、使用できる機能は制限されます。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。詳細については、『[Dell Command | Configure Release Notes](#)』(Dell Command | Configure リリース ノート) を参照してください。

トピック :

- [Microsoft Windows システム内の Dell Command | Configure へのアクセス](#)
- [Linux での Dell Command | Configure へのアクセス](#)
- [Dell Command | Configure のファイルとフォルダ](#) Dell Command | Configure
- [Dell Command | Configure GUI へのアクセス](#)
- [GUI を使用した BIOS パッケージの作成](#)
- [Advanced System Management](#)
- [BIOS オプション検証](#)
- [BIOS 設定のエクスポート](#)
- [ターゲットシステム設定](#)
- [パッケージ履歴内のログ詳細](#)

Microsoft Windows システム内の Dell Command | Configure へのアクセス

スタート > すべてのプログラム > Dell > Command Configure > Dell Command | Configure コマンドウィザード の順にクリックします。

スタート > すべてのプログラム > クライアント > Dell Command | Configure コマンドウィザード の順にクリックします。

Linux での Dell Command | Configure へのアクセス

/opt/dell/dcc ディレクトリを参照します。

① **メモ:** Ubuntu Core を実行しているシステムでは、Dell Command | Configure はコマンド `dcc.cctk` を使用して、どの場所からもアクセスできます。

Dell Command | Configure のファイルとフォルダ Dell Command | Configure

次の表は、Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムの Dell Command | Configure のファイルとフォルダを示したものです。

表 1. Dell Command | Configure のファイルとフォルダ Dell Command | Configure

ファイル / フォルダ	説明
Dell Command Configure コマンドプロンプト	Dell Command Configure コマンドプロンプトへのアクセスに使用します。
Dell Command Configure ウィザード	Dell Command Configure GUI へのアクセスに使用します。
Dell Command Configure WINPE	ブータブルイメージ作成のために、Windows PE スクリプトにアクセスする場合に使用します。詳細については、 dell.com/dellclientcommandssuitemanuals の『Dell Command Configure Installation Guide』（Dell Command Configure インストールガイド）を参照してください。
オンラインのユーザーズガイド	dell.com/dellclientcommandssuitemanuals で入手できる Dell Command Configure ドキュメントへのアクセスに使用します。

Dell Command | Configure GUI へのアクセス

① | **メモ:** Dell Command | Configure GUI は、Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムでのみサポートされます。

GUI にアクセスするには、**スタート > すべてのプログラム > デル > Dell Command | Configure ウィザード** の順にクリックするか、デスクトップの **Dell Command | Configure ウィザード** をクリックします。

GUI を使用した BIOS パッケージの作成

Dell Command | Configure GUI を使用すると、ターゲット クライアント システムに適用する有効な設定が含まれた BIOS パッケージを作成することができます。

BIOS パッケージを作成するには、次の手順を実行します。

1 設定ウィザードにアクセスします。

詳細については、「[Dell Command | Configure GUI へのアクセス](#)」を参照してください。

[**マルチプラットフォーム パッケージの作成**] 画面が、次の設定オプションと共に表示されます。

- **マルチプラットフォーム パッケージの作成** — クリックすると、すべてのクライアント システムでサポートされている BIOS 設定が表示されます。設定の構成、検証、およびエクスポートは、**INI**、**CCTK**、**EXE**、**シェル スクリプト**、または **HTML** ファイルで行います。
- **ローカル システム パッケージの作成** — クリックすると、ホスト システムの BIOS 設定が表示されます。設定の構成、検証、およびエクスポートは、**INI**、**CCTK**、**EXE**、または **HTML** ファイルで行います。ファイルには、システムでサポートされている BIOS オプションとサポートされていない BIOS オプションが表示されます。
- **保存されたパッケージを開く** — クリックすると、保存した設定ファイルがインポートされます。設定の構成、検証、およびエクスポートは、**INI**、**CCTK**、**EXE**、**シェル スクリプト**、または **HTML** ファイルで行います。

① | **メモ:** 保存したパッケージを開くには、**保存されたパッケージを開く** をクリックし、ファイルの場所を参照して **開く** をクリックします。

2 必要なオプションをクリックします。

設定に使用できる全オプションが表示されます。詳細については、「[設定オプション](#)」を参照してください。

3 **編集** をクリック、またはオプションをダブルクリックします。

4 **設定する値** ドロップダウンリストから必要なオプションの値を選択します。

選択すると、編集されたオプションの **設定を適用する** チェックボックスが表示されます。

- 5 編集したオプションをエクスポートするには、必要なエクスポートオプションを選択します。
詳細については、「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

① **メモ:** オプションをエクスポートしない場合は、[設定を適用する] チェック ボックスのチェックを外してください。

① **メモ:**
オプションで文字列の入力ができる場合は、そのオプションにはエスケープ シーケンスを追加する必要はありません。

関連リンク :

- [設定オプション](#)
- [セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードの設定](#)
- [セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードのクリア](#)
- [autoon オプションの設定](#)
- [起動順序の設定](#)
- [プライマリバッテリー充電の設定](#)
- [高度なバッテリー充電の設定](#)
- [ピークシフトバッテリー充電の設定](#)
- [キーボードバックライトカラーオプションの設定](#)

設定オプション

次の表で説明されている設定オプションを使用すると、BIOS 設定をカスタマイズして設定パッケージを作成することができます。

表 2. 設定オプション

オプション	説明
表示 / 変更	<p>これをクリックして、選択された設定を表示または変更し、新しい設定をロードします。表示 / 変更 をクリックして新しい設定をロードすると、設定画面が表示されます。希望する変更を行ったら、保存 をクリックして変更を保存するか、または キャンセル をクリックして前の設定に戻ります。</p> <p>① メモ: 設定した BIOS オプションをエクスポートせずに新しい設定をロードしようとする、画面が表示されます。[変更の破棄] をクリックして設定された値を破棄するか、または [キャンセル] をクリックして同じ設定で続行します。</p>
編集	これをクリックして、ロードされた設定を編集します。
詳細ビュー	<p>これをクリックして、コマンドラインオプション、オプションに設定できる可能な値、オプションの現在の値、設定を適用するためのオプション、およびオプションの説明などの設定詳細を表示します。</p> <p>① メモ: ホストシステムの設定をロードした場合は、オプションの現在の値を表示することができます。</p>
ベーシックビュー	<p>これをクリックして、オプションが属するカテゴリ、オプションの名前、オプションに設定できる可能な値、オプションの現在の値、設定を適用するためのオプション、およびオプションの説明などの設定詳細を表示します。</p> <p>① メモ: ホストシステムの設定をロードした場合は、オプションの現在の値を表示することができます。</p>
検証	これをクリックして、ホストシステムの設定との比較で、ロードされた設定を検証します。詳細については、「 BIOS オプション検証 」を参照してください。
検索	表内のテキスト文字列を検索します。検索ボックスにテキストを入力すると、表内の最初に検出されたテキストが選択されます。
カテゴリ	これをクリックして、ドロップダウンリストから必要なカテゴリを選択します。

オプション	説明
	① メモ: このオプションを表示できるのは ベーシックビュー のみです。
名前	オプションの名前を表示します。
	① メモ: このオプションを表示できるのは ベーシックビュー のみです。
設定する値	オプションの値を表示します。値を変更するには、行をダブルクリックするか、または 編集 をクリックします。
現在の値	オプションの現在の値を表示します。
	① メモ: このオプションは、 ホストシステムの設定をロードした場合に表示することができます。
設定を適用する	このチェックボックスを選択して、オプションをエクスポートします。デフォルトで、 設定する値 列に値があるすべてのオプションが選択されます。
説明	オプションの簡単な説明が表示されます。
コマンドラインオプション	オプションのコマンドライン表記を表示します。
	① メモ: このオプションを表示できるのは 詳細ビュー のみです。
ステータス	ロードされた設定のオプションのステータスを表示します。
	① メモ: ステータス 列が表示されるのは、 検証時のみ です。

セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードの設定

BIOS パスワードとしても知られるセットアップパスワード(**setuppwd**)、システムパスワード(**syspwd**)、およびハードディスクドライブパスワード(**hddpwd**) は、設定または変更することができます。

セットアップ、システム、またはハードディスクドライブパスワードを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 **編集** モードで必要なオプションの **設定する値** テキストボックスをクリックします。
対応するパスワード画面が表示されます。
 - ① | **メモ:** クリアテキストとしてパスワードを表示するには、**パスワードを表示する** を選択します。**パスワードを表示する** を選択すると、**パスワードの確認** テキストボックスは表示されません。パスワード テキストボックスにパスワードを入力をします。
 - ① | **メモ:** セットアップパスワード、およびシステムパスワードには少なくとも 4 文字が含まれている必要があります。
- 2 **パスワードの確認** テキストボックスに同じパスワードを入力し、パスワードを確認します。
両方のエントリが一致する場合は、緑色のチェックマークが **パスワードの確認** テキストボックスの横に表示され、一致しない場合は赤色の X マークが表示されます。
- 3 **送信** をクリックします。
- 4 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

既存のパスワードを使用したセットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードのクリア

既存のパスワードを使用して、設定済みのセットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードをクリアすることができます。

- ① | **メモ:** 既存のパスワードがわからないと、パスワードをクリアすることはできません。

パスワードをクリアするには、次の手順を行います。

- 1 **編集** モードで、必要なオプションの **設定する値** テキストボックスをクリックします。
対応するパスワード画面が表示されます。
 - ① **メモ:** パスワードをクリアテキストとして表示するには、**Show Password** を選択します。**Show Password** を選択すると、テキストボックス **Confirm Password** は表示されません。
- 2 **パスワード** テキストボックスに空のスペースを入力します。
- 3 **パスワードの確認** テキストボックスに空のスペースを入力してパスワードを確認します。
両方のエントリが一致する場合は、緑色のチェックマークが **パスワードの確認** テキストボックスの横に表示され、一致しない場合は赤色の **X** マークが表示されます。
- 4 **送信** をクリックします。
- 5 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

パスワード保護画面

システムまたはセットアップパスワードを使用してファイルまたはレポートをエクスポートする際に、パスワード保護画面が表示されます。パスワードをクリアテキストとして使用してファイルをエクスポートするには、**続行** をクリックします。パスワードを使用せずにファイルをエクスポートするには、**マスク** をクリックします。

autoon オプションの設定

電源およびパフォーマンス管理 カテゴリから **autoon** オプションを使用して、自動でシステムをオンにする日を設定することができます。

日を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 必要なオプションをクリックします。
 - **マルチプラットフォームパッケージの作成**
 - **ローカルシステムパッケージの作成**
 - **保存されたパッケージを開く**
- ① **メモ:** 保存したパッケージを開くには、**保存されたパッケージを開く** をクリックし、**ファイルの場所を参照して開く** をクリックします。
- 2 **編集** をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
- 3 **autoon** オプション行で、**設定する値** 列の **表示 / 変更** をクリックします。
autoon 画面が表示されます。
- 4 **autoon** 画面から、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **無効** - 機能をオフにします。
 - **平日** - 平日のみ自動でターゲットシステムをオンにします。
 - **毎日** - 毎日自動でターゲットシステムをオンにします。
 - **選択した曜日** — 自動でターゲットシステムをオンにする曜日を選択します。
- 5 **OK** をクリックします。
- 6 変更を適用するには、設定を ini または .exe 形式でエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

bootorder オプションの設定

[**起動管理**] カテゴリの [**bootorder**] オプションでクライアントシステムの起動順序を設定できます。レガシーおよび UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の起動項目の起動順序の追加、削除、有効化、無効化、変更を行うことができます。

起動順序を設定するには、次の手順を実行します。

- 必要なオプションをクリックします。
 - マルチプラットフォームパッケージの作成
 - ローカルシステムパッケージの作成
 - 保存されたパッケージを開く
- ① | **メモ:** 保存したパッケージを開くには、保存されたパッケージを開くをクリックし、ファイルの場所を参照して開くをクリックします。
- 編集 をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
 - bootorder オプション行で、設定する値 列の 表示 / 変更 をクリックします。
起動順序の画面には、現在の起動順序タイプと起動順序オプションが表示されます。詳細は、「[起動順序の設定](#)」を参照してください。
 - マルチプラットフォームパッケージを作成するためにデバイスを追加することができます。
 - ローカルシステムパッケージを作成、および保存したパッケージを開くためにデバイスを追加することができ、既存の起動順序がある場合は、それを編集することができます。
- ① | **メモ:** デバイスの起動順序を変更するには、起動順序 画面の下部にある矢印ボタンを使用します。
- OK をクリックして設定を保存、または 閉じる をクリックして変更を破棄し、起動順序 画面を閉じます。
 - 変更を適用するには、設定を ini または .exe 形式でエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

関連リンク：

- [起動順序への新しいデバイスの追加](#)
- [起動順序タイプ](#)

起動順序画面

次の表には、**Dell Command | Configure - 起動順序** 画面で使用できるオプションが記載されています。

表 3. 起動順序画面上のオプション

オプション	説明
アクティブなブートリスト	必要に応じて、UEFI またはレガシーの [アクティブなブートリスト] を設定したり、変更したりすることができます。アクティブなブートリストが [オン] になっていると、起動順序タイプに応じて UEFI またはレガシーで起動します。 ① メモ: システムで対応しているデバイスが UEFI のみの場合は、[ローカル システム パッケージ] で [アクティブなブートリスト] を変更することはできません。
デバイスタイプ	デバイスのタイプが表示されます。
デバイスインスタンス	システム上のデバイスを識別するための一意の番号が表示されます。
省略名	デバイス名の省略名が表示されます。システムに同じデバイス タイプのデバイスが多数ある場合、デバイスの省略名が <番号> の表記と共に表示されます。たとえば、システムに内蔵ハードドライブ、eSATA HDD、eSATA ドック HDD がある場合、省略名はそれぞれ hdd.1、hdd.2、hdd.3 と表示されます。
説明	デバイスの簡単な説明が表示されます。
ステータス	デバイスがオンかオフかを表示します。
削除	起動順序からデバイスを削除します。デバイスを削除するには X をクリックします。 ① メモ: このオプションは、起動順序画面が 編集 モード のときに表示することができます。

起動順序への新しいデバイスの追加

起動順序に新しいデバイスを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **起動順序** 画面で **デバイスの追加** をクリックします。
- 2 **デバイスタイプ** ドロップダウンリストからデバイスを選択します。
[**省略名**]、[**説明**]、[**ステータス**] の各フィールドには自動的に値が入力されます。デフォルトでは、デバイスの [**ステータス**] は [**オン**] になっています。
- 3 **デバイスインスタンス** ドロップダウンリストからデバイスのインスタンスを選択します。
- 4 **OK** をクリックします。

① **メモ:** UEFI またはレガシーの [**起動順序タイプ**] で同じ [**デバイスタイプ**] と [**デバイス インスタンス**] を選択すると、「入力リストから重複している項目を削除してください」という次の警告メッセージが表示されます。

起動順序タイプ

起動順序タイプには、ロードされた設定のタイプが表示されます。起動順序には、レガシーと UEFI の 2 種類があります。ホストのシステム ファイルがロードされると、現在アクティブな起動順序タイプが表示されます。保存されているファイルがロードされると、そのファイルに保存されている起動順序タイプが表示されます。

起動順序タイプの一般的なシナリオは次のとおりです。

- ファイルに起動順序タイプが指定されていない、システムに UEFI デバイスがある場合は、起動順序タイプは UEFI と表示されます。
- ファイルに起動順序タイプが指定されていない、システムにレガシーなデバイス (**hdd** 以外) がある場合は、起動順序タイプはレガシーと表示されます。
- 起動順序タイプが指定されていない、ロードした設定ファイルに指定されている項目が **hdd** のみの場合、起動順序タイプの選択が求められます。
- レガシーなシステムの起動順序タイプが指定されていない、またシステムに UEFI とレガシーの両方のデバイスが存在する場合、警告メッセージが表示され、デバイスの発生順に応じてレガシーデバイスまたは UEFI デバイスが削除されます。

primarybatterycfg オプションの設定

プライマリバッテリー充電モードは、**電源およびパフォーマンス管理** カテゴリから **primarybatterycfg** オプションを使用して設定することができます。

プライマリバッテリー充電オプションを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 必要なオプションをクリックします。
 - **マルチプラットフォームパッケージの作成**
 - **ローカルシステムパッケージの作成**
 - **保存されたパッケージを開く**
- ① **メモ:** 保存されたパッケージを開くには、**保存されたパッケージを開く** をクリックし、ファイルの場所を参照してから **開く** をクリックします。
- 2 **編集** をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
- 3 **primarybatterycfg** オプション行で、**設定する値** 列の **表示 / 変更** をクリックします。
プライマリバッテリー 画面が表示されます。
- 4 **プライマリバッテリー** 画面でバッテリーを充電するためのモードを選択します。
 - **標準充電** — 長時間にわたってバッテリーを充電します。
 - **高速充電** — Dell の高速充電テクノロジーである高速充電アルゴリズムを使用してバッテリーを充電します。
 - **AC 使用** — コンセント接続時にバッテリーを充電します。

- **自動充電** — バッテリーの使用状況の定期的な評価に基づいてバッテリーを充電し、最もバランスの良い容量を実現します。
- **カスタム充電** — ユーザー設定に基づいてバッテリー充電を開始 / 停止します。

① **メモ:** カスタム充電 を選択した場合は、充電開始 (50 ~ 95%) および 充電停止 (55 ~ 100%) の値を指定します。

- 5 OK をクリックします。
- 6 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

advbatterychargecfg オプションの設定

高度なバッテリー充電モードは、**電源およびパフォーマンス管理** カテゴリから **advbatterychargecfg** オプションを使用して設定することができます。高度なバッテリー充電モードは、業務時間外に標準充電アルゴリズムとその他の方法を使用してバッテリーの正常性を最大化します。業務時間内は、バッテリーをより迅速に充電するために高速充電が使用されます。バッテリーを充電する必要がある曜日と業務時間を設定することもできます。高度なバッテリー充電を有効にするには、曜日、開始時刻、および充電期間 (最適な使用期間) を入力します。

高度なバッテリー充電オプションを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 必要なオプションをクリックします。
 - マルチプラットフォームパッケージの作成
 - ローカルシステムパッケージの作成
 - 保存されたパッケージを開く

① **メモ:** 保存したパッケージを開くには、保存されたパッケージを開く をクリックし、ファイルの場所を参照して 開く をクリックします。

- 2 **編集** をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
- 3 **advbatterychargecfg** オプション行で、**設定する値** 列の **表示 / 変更** をクリックします。
高度なバッテリー設定 画面が表示されます。
- 4 高度なバッテリー充電モードを有効にします。

① **メモ:** 高度なバッテリー充電モードが BIOS セットアップ 画面で有効化されている場合、高度なバッテリー充電モードを有効にする はデフォルトで選択されています。

- 5 曜日を選択します。

① **メモ:** すべての日に同じ設定を適用するには、他の日にこれらの設定を適用する オプションを選択します。
- 6 **始業時間** ドロップダウンリストで、高度な充電を開始する時刻を選択します。
- 7 **業務時間** ドロップダウンリストで、高度な充電を行う期間を選択します。
- 8 **OK** をクリックします。
- 9 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

peakshiftcfg オプションの設定

ピークシフトバッテリー充電モードは、**電源およびパフォーマンス管理** カテゴリから **peakshiftcfg** オプションを使用して設定することができます。ピークシフト設定を使用すると、1日のピーク電力使用時間帯に AC 電源の消費を最小限に抑えることができます。ピークシフト時間帯には開始時刻および終了時刻を設定することができます。この時間帯では、バッテリーの充電残量が設定されたバッテリーしきい値を上回る場合、システムがバッテリーで稼働します。ピークシフト時間帯の後はバッテリーの充電は行わず、システムは AC 電源で実行されます。システムは AC 電源を使用し、指定された充電開始時刻にバッテリーを再充電して、通常どおりに機能します。

ピークシフトバッテリー充電オプションを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 必要なオプションをクリックします。
 - マルチプラットフォームパッケージの作成
 - ローカルシステムパッケージの作成

- 保存されたパッケージを開く

- ① **メモ:** 保存したパッケージを開くには、保存されたパッケージを開くをクリックし、ファイルの場所を参照して開くをクリックします。
- 編集 をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
- peakshiftcfg オプション行で、設定する値 列の 表示 / 変更 をクリックします。
ピークシフト 画面が表示されます。
- ピークシフト設定オプションを有効にします。
- 曜日を選択します。

① **メモ:** すべての日に同じ設定を適用するには、他の日にこれらの設定を適用する オプションを選択します。

- 6 **バッテリーのみで稼働** ドロップダウンリストから、システムをバッテリーのみで稼働させる開始時刻を選択します。
- 7 **AC 電源のみで稼働** ドロップダウンリストから、システムを AC 電源のみで稼働させる開始時刻を選択します。
- 8 **通常の電源 / 充電の再開** ドロップダウンリストから、システムが AC 電源の使用とバッテリーの再充電を開始する必要がある時刻を選択します。

① **メモ:** システムは次の条件を満たすためにドロップダウンリストの値を調整します。

- **バッテリーのみで駆動** 時間は、**AC 上のみで駆動** に指定された時間以下にする必要があります。
- **バッテリーのみで駆動** 時間と **AC 電源のみで駆動** 時間は、**通常の電源 / 充電の再開** 時間未満、またはそれより長くする必要があります。

- 9 **OK** をクリックします。

① **メモ:** すべての曜日に同じ設定を適用するには、他の日にこれらの設定を適用する チェックボックスを選択します。

- 10 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

keyboardbacklightcolor オプションの設定

Dell Latitude Rugged Extreme システムのキーボードバックライトカラーは、**システム設定** カテゴリから **keyboardbacklightcolor** オプションを使用して設定することができます。対応カラーの有効化、アクティブカラーの設定、および customcolor 1 と customcolor 2 の設定を行うことが可能です。

キーボードバックライトカラー変更するには、次の手順を実行します。

- 1 必要なオプションをクリックします。
 - マルチプラットフォームパッケージの作成
 - ローカルシステムパッケージの作成
 - 保存されたパッケージを開く

① **メモ:** 保存されたパッケージを開くには、保存されたパッケージを開くをクリックし、ファイルの場所を参照してから開くをクリックします。

- 2 **編集** をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
- 3 **keyboardbacklightcolor** オプション行で、設定する値 列の **表示 / 変更** をクリックします。
キーボードバックライトカラー 画面が表示されます。
- 4 **有効化** リストからキーボードバックライト用に有効化する色を選択します。

① **メモ:**

- 一度に複数の色を選択して有効にすることができます。
- **なし** を選択した場合、どの色も有効になりません。オプション **なし** を選択すると、他の色は選択できません。

- 5 **アクティブ** リストからキーボードバックライトのアクティブカラーとして設定する色を選択します。

① **メモ:** キーボードバックライトのアクティブカラー用に選択できる色は、一度に 1 色のみです。

- 6 **CustomColor1** または **CustomColor2** を選択した場合は、赤、緑、および青 (RGB) の値を設定します。
CustomColor1 または CustomColor2 の RGB 値を設定するには、次の手順を実行します。

- a **変更** をクリックします。
 - b カラーキャンバスから色を選択します。
 - c **選択** をクリックします。
- 7 **OK** をクリックします。
 - 8 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

Advanced System Management

Advanced System Management (ASM) は、Dell Precision R7610、T5810、T7810、T7910 およびそれ以降のワークステーションでサポートされている機能です。電圧、温度、電流、冷却装置、電源プローブについての情報が表示されます。電圧、電流、冷却、温度プローブの非重要上限しきい値も設定できます。この機能を搭載したシステムモデルの詳細については、サポートチームにお問い合わせください。

非重要しきい値の設定

① **メモ:** 重要および非重要上限しきい値は、電圧、電流、冷却、温度プローブのみに設定できます。

プローブに非重要しきい値を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 必要なオプションをクリックします。

- マルチプラットフォームパッケージの作成
- ローカルシステムパッケージの作成
- 保存されたパッケージを開く

① **メモ:** 保存したパッケージを開くには、保存されたパッケージを開く をクリックし、ファイルの場所を参照して 開く をクリックします。

- 2 **編集** をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
- 3 **advsm** オプション行で、設定する値 列の **表示 / 変更** をクリックします。

Advanced System Management 画面が表示されます。

① **メモ:**

- **ローカルシステムパッケージの作成** の非重要しきい値を設定する場合、**説明、タイプ、インデックス、場所、最小、最大、重要上限しきい値、非重要上限しきい値、削除** 列が表示されます。システムに使用可能なプローブの詳細が表示されます。表示されたプローブの **タイプ** フィールドと **インデックス** フィールドは編集できません。
- **マルチプラットフォームシステムパッケージの作成** の非重要しきい値を設定する場合、**タイプ、インデックス、非重要上限しきい値、削除** 列が表示されます。システムにはプローブの値は表示されません。選択した各プローブの **インデックス** フィールドと **非重要上限しきい値** フィールドに、値を設定する必要があります。**インデックス** の値は、システム上で実行されているプローブのインスタンスの数に応じて設定します。**非重要上限しきい値** は、重要上限しきい値の範囲内である必要があります。

- 4 新しいプローブに非重要しきい値を設定するには、**プローブの追加** をクリックし、必要なフィールドに値を入力します。
- 5 リストされたプローブに非重要しきい値を設定するには、それぞれの列に値を入力します。
- 6 プローブを削除するには、**X** マークをクリックします。
- 7 **OK** をクリックします。
- 8 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

BIOS オプション検証

検証 オプションを使用して、ホストシステムの設定に対して BIOS パッケージのオプションを検証することができます。マルチプラットフォームパッケージ、ローカルシステムパッケージ、または保存されているパッケージの設定を検証できます。**bootorder**、**syspwd**、**setuppwd** オプションを除くすべてのオプションの検証が可能です。

マルチプラットフォームパッケージまたは保存されたパッケージの検証

マルチプラットフォームまたは保存されたパッケージのオプションを検証するには、次の手順を実行します。

マルチプラットフォームパッケージの作成 画面で **検証** をクリックします。

- ホストシステムでオプションと設定済みの値がサポートされている場合、緑色のチェックマークが **ステータス** 列に表示されます。
- ホストシステムでオプションがサポートされていても設定済みの値がサポートされていない場合は、赤色の X マークが **ステータス** 列に表示されます。
- サポートされていないオプションはすべてグレー表示になり、**ステータス** 列は空欄のままになります。
- ホストシステムでサポートされているオプションはすべてハイライト表示され、**ステータス** 列は **設定する値** フィールドが **未指定** となった状態で空欄のままとなります。

ローカルシステムパッケージの検証

ローカルシステムパッケージのオプションを検証するには、次の手順を実行します。

ローカルシステムパッケージの作成 画面で **検証** をクリックします。

- ホストシステムに該当するすべてのオプションがハイライト表示され、緑色のチェックマークが **ステータス** 列に表示されます。
- サポートされていないオプションはすべてグレー表示になり、**ステータス** 列は空欄のままになります。

① | **メモ:** ホストシステム上でサポートされるオプションは、ローカルシステムパッケージの検証後も設定可能です。

BIOS 設定のエクスポート

カスタマイズされた設定をエクスポートして、ターゲットクライアントシステムに同じ設定を適用することができます。サポートされているオプションとサポートされていないオプションの両方をエクスポートすることができます。特定のオプション (**asset** および **propowntag**) は、値を指定せずにエクスポートすることができます。

オプションをエクスポートするには、次の手順を実行します。

そのオプションの **設定を適用する** チェックボックスを選択し、次のいずれかのフォーマットでエクスポートします。

- **自己完了型の実行可能ファイル** — SCE (EXE ファイル) として設定をエクスポートするには、**EXPORT.EXE** をクリックします。詳細については、「**セットアップ、システム、またはハードディスクドライブパスワード画面**」を参照してください。
- **レポート** — **レポート** をクリックして、読み取り専用の HTML ファイルとして設定をエクスポートします。
- **設定ファイル** — **設定のエクスポート** をクリックして、CCTK または INI ファイルとして設定をエクスポートします。

① | **メモ:** GUI でオプションを表示して設定するには、**CCTK ファイルをダブルクリック** します。

- **シェルスクリプト** — シェルスクリプトは SCE ファイルがエクスポートされた場所に生成され、SCE ファイルと同じ設定が含まれています。シェルスクリプトは、Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムを設定するために使用されます。

SCE (.EXE) ファイルのエクスポート

BIOS 設定をエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 **EXPORT.EXE** オプションをクリックして、BIOS 設定を .exe ファイルとしてエクスポートします。
- 2 **セットアップ、システムまたはハードディスクドライブパスワード** 画面が表示され、パスワードを入力するよう求められます。
- 3 ターゲットシステムに設定されたパスワードのタイプに応じて、以下の表を参考にして入力するパスワードを決定します。

Settings you want to configure	Passwords set on the target system						
	Setup Password	System Password	Hard Disk Drive Password	Setup and System Passwords	Setup and Hard Disk Drive Passwords	System and Hard Disk Drive Passwords	System, Setup and Hard Disk Drive Passwords
BIOS Tokens/features	Setup Password	System Password	Not Required	Setup Password	Setup Password	System Password	Setup Password
Setup Password	Setup Password	System Password	Not Required	Setup Password	Setup Password	System Password	Setup Password
System Password	Setup Password	System Password	Not Required	Setup and System Passwords	Setup Password	System Password	Setup and System passwords
Hard Disk Drive Password	Setup Password	System Password	Hard Disk Drive Password	Setup Password	Setup and Hard Disk Drive Passwords	System and Hard Disk Drive Passwords	Setup and Hard Disk Drive Passwords

図 1. パスワード参照表

たとえば、次のとおりです。

- システムでセットアップパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能を設定する場合は、セットアップパスワードを入力する必要があります。
 - システムでセットアップパスワードおよびシステムパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能を設定する場合は、セットアップパスワードを入力する必要があります。
 - システムでセットアップパスワードおよびシステムパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能の設定とともにシステムパスワードの変更を行う場合は、システムパスワードとセットアップパスワードの両方を入力する必要があります。
 - システムでセットアップ、システムおよびハードディスクドライブパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能の設定とともにハードディスクドライブパスワードの変更を行う場合は、セットアップパスワードとハードディスクドライブパスワードの両方を入力する必要があります。
- 希望する設定を行うことができるようにするには、適切なパスワードを入力してください。
 - セットアップパスワードを入力するには、**セットアップパスワード** をクリックし、**下記のパスワード情報を使用する** オプションを選択してからセットアップパスワードを入力します。
 - システムパスワードを入力するには、**システムパスワード** をクリックし、**下記のパスワード情報を使用する** オプションを選択してからシステムパスワードを入力します。
 - ハードディスクドライブパスワードを入力するには、**ハードディスクドライブパスワード** をクリックし、**下記のパスワード情報を使用する** オプションを選択してからハードディスクドライブパスワードを入力します。
 - ターゲットシステムにセットアップ、システム、またはハードディスクドライブパスワードがない場合は、**パスワードは不要** を選択します。
 - 警告メッセージ「この BIOS 設定をエクスポートすると、システム、セットアップ、HDD のパスワードはもはや安全ではなくなります。パスワードをクリアテキストで表示したまま続行する場合は、**続行** を選択してください。パスワードを非表示にする場合は、**マスク** を選択してください」が表示されます。パスワードを保護するには **マスク** をクリックします。それ以外の場合は、**続行** をクリックします。
 - OK** をクリックします。

📘 | **メモ:** WMI-ACPI 非準拠のシステムでも、マルチシステムパッケージを使用して SCE を生成できます。

値設定なしでの設定のエクスポート

値への変更を指定せずに **asset** および **propowntag** をエクスポートするには、次の手順を実行します。

対応するオプションの **設定を適用する** チェックボックスを選択し、エクスポートします。

ターゲットシステム設定

ターゲットクライアントシステムを設定するために、エクスポートされた INI、CCTK、SCE、およびシェルスクリプトファイルを適用することができます。

関連リンク：

- [INI または CCTK ファイルの適用](#)
- [Linux システムへのシェルスクリプトの適用](#)

- SCE ファイルの適用

INI または CCTK ファイルの適用

INI ファイルまたは CCTK ファイルの適用に対する前提条件は次のとおりです。

- システム管理者権限
- Dell Command | Configure がクライアントシステムにインストールされていること

INI ファイルまたは CCTK ファイルを適用するには、`cctk -i <filename>` を実行します。

- ① **メモ:** Ubuntu Core オペレーティングシステムを実行するシステムでは、`var/snap/dcc/current` にあるファイルをコピーして `dcc.cctk -i /var/snap/dcc/current/<filename>.ini` を実行します。

Linux へのシェルスクリプトの適用

- 1 Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムにスクリプトをコピーします。
- 2 システムで `dos2unix` を実行します。
- 3 `sh <filename.sh>` としてスクリプトを実行します。

SCE ファイルの適用

- ① **メモ:** これには管理者権限が必要です。

ターゲットシステムに SCE を適用するには、次の手順を実行します。

SCE をダブルクリックする、またはコマンドプロンプトから SCE があるディレクトリを参照し、SCE ファイルの名前を入力します。
たとえば、`C:\Users\SystemName\Documents>"<filename>"` と入力します。

- ① **メモ:** Windows PE システムでは SCE を実行できません。Windows PE オペレーティングシステムを実行しているターゲットシステムで SCE を適用する場合の詳細については、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。
- ① **メモ:** 生成された SCE ファイルは、WMI-ACPI 非準拠のシステムでは動作しません。

SCE 詳細

SCE を使用することができる一般的なシナリオのいくつかを次に説明します。

- ターゲットシステムに SCE を適用すると、SCE はターゲットシステムで BIOS 設定のサイレントインストールを実行します。インストールが完了したら、SCE は同じ場所に SCE 名を含むログファイルを生成します。ログファイルには、適用されたすべてのオプションと、SCE ファイルのステータスが含まれています。
 - ① **メモ:** 必要な場所にログファイルを生成するには、ログファイルの場所を指定します。たとえば、`SCE.exe /l="<folder_path>\log.txt"` などです。
- 読み取り専用の場所から SCE をターゲットシステムに適用するときは、ログファイルの生成を防止する `/nolog` オプション（たとえば、`SCE.exe /nolog`）を提供します。`/nolog` オプションは SCE の正常な実行に役立ち、SCE が読み取り専用の場所にあるためにログファイルが作成されないことを通知します。
- `/nolog` オプションを使用せずに読み取り専用の場所から SCE を実行すると、SCE の実行は失敗します。
- Windows PE に SCE を適用するには、`/e` オプションを使用して Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムから SCE を抽出します。たとえば、`SCE.exe/e=<folder_path_to_extract SCE>` などです。

- ターゲットシステムにセットアップまたはシステムパスワードを設定しており、SCE のエクスポート中に **セットアップ、システム、またはハードディスクドライバパスワード** 画面で同じパスワードを入力しなかった場合、SCE をダブルクリックしてターゲットシステムに適用することはできません。ただし、コマンドプロンプトから SCE を適用する間に、ターゲットシステムのセットアップまたはシステムパスワードを提供することができます。

① **メモ:** セットアップパスワードの提供例 : `C:\Windows\Command Configure\SCE>"<filename>" --valsetuppwd=<password string>`

① **メモ:** システムパスワードの提供例 : `C:\Windows\Command Configure\SCE>"<filename>" --valsyspwd= <password string>`

関連リンク :

- [BIOS 設定のエクスポート](#)
- [値設定なしでの設定のエクスポート](#)

パッケージ履歴内のログ詳細

BIOS 設定のエクスポートの詳細は、**パッケージ履歴** 画面で表示することができます。**パッケージの履歴** には、時間、日付、エクスポートのタイプ、およびファイルのエクスポート先の場所などの詳細が表示されます。

関連リンク :

- [ログファイルの表示](#)
- [ログ詳細の削除](#)

ログファイルの表示

Dell Command | Configure ページで **パッケージ履歴** をクリックします。

ログ詳細の削除

パッケージ履歴 ページで、**ログのクリア** をクリックします。

Dell Command | Configure に関するフィードバック Dell Command | Configure

Dell Command | Configure GUI のリンクを使用して、Dell Command | Configure に関するフィードバックを送信することができます。

- 1 **ご意見をお聞かせください** リンクをクリックして、オンラインアンケートページを開きます。
- 2 フィードバックと満足度評価を入力してください。
- 3 **送信** をクリックして、デルに提出します。

Dell Command | Configure 4.2 のトラブルシューティング事例

Dell Command | Configure を実行するとエラーメッセージが表示される

エラーメッセージ `Required BIOS interface not found or HAPI load error.`が表示された場合は、Hardware Application Programming Interface (HAPI) をアンインストールおよび再インストールします。

32 ビットおよび 64 ビットの Windows 対応システムで Dell Command | Configure を実行する

システムのアーキテクチャに応じた `cctk.exe` を実行していることを確認します。32 ビットの対応システムで Dell Command | Configure を実行する場合は、インストール ディレクトリー内の `x86` ディレクトリーを参照して、Dell Command | Configure コマンドを実行します。64 ビットの対応システムで `cctk.exe` を実行する場合は、`x86_64` ディレクトリーを参照して、Dell Command | Configure コマンドを実行します。

64 ビットの対応システムで 32 ビット対応システム用の Dell Command | Configure を実行すると、`HAPI Driver Load Error` というエラーメッセージが表示されます。

32 ビットの対応システムで 64 ビット対応システム用の Dell Command | Configure を実行すると、`Not a valid Win32 application` というエラーメッセージが表示されます。

ユーザー アカウント制御が有効な Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10 で Dell Command | Configure を実行する

Windows 7 以降を稼働しているシステムで、ユーザー アカウント制御(UAC)を有効にした状態で Dell Command | Configure を実行するには、[**Dell Command | Configure コマンド プロンプト**] を右クリックして、[**管理者として実行**] を選択します。

① **メモ:** Windows 7、Windows 8、Windows 8.1 で UAC を有効にすると、管理者権限を持つユーザーはサイレント モードで Dell Command | Configure をインストールしたり、アンインストールしたりすることができなくなります。

Linux で Dell Command | Configure を実行する

Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムに Dell Command | Configure をインストールする場合は、エントリ `modprobe dcdbas` を `/etc/rc.modules` ファイルに追加します。Dell Command | Configure をアンインストールしても、このエントリは削除されません。

TPM のアクティブ化

Trusted Platform Module (TPM) は、認証、インテグリティメトリクスおよびレポート、さらにセキュアキー階層を提供する業界標準の暗号化モジュールです。クライアントシステムは、TPM を使用してシステムの状態が 2 回の起動サイクルで変更されたかどうかを確認します。

TPM をアクティブにする、および TPM のアクティブ化をチェックするには、次の手順を実行します。

- 1 BIOS パスワードが設定されていない場合は、それをシステムに設定します。次のように入力します。

```
cctk --setuppwd=<new-BIOS-password>
```

- 2 有効でない場合は、TPM を有効にします。次のコマンドを入力します。

```
cctk --tpm=on
```

- 3 システムを再起動します。

- 4 TPM をアクティブにするには、次のコマンドを入力します。

```
cctk --tpmactivation=activate --valsetuppwd=<Setuppwd>
```

- 5 オペレーティングシステムがロードされるまで、システムを中断せずに再起動します。

- 6 TPM のステータスをチェックするには、次のように入力します。

```
cctk --tpmactivation
```

ステータスが **アクティブ化** として表示されます。

Windows Preinstallation Environment (Windows PE) での SCE の実行が失敗する

GUI のエクスポートオプションを使用して生成された SCE は、Windows PE では実行できません。SCE を使用して BIOS を設定するには、Windows PE オペレーティングシステムを実行しているターゲットシステムで：

- 1 Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムで、次のコマンドを使用して SCE の内容をフォルダに抽出します。

```
Sce.exe /e=<folder_path_to_extract_contents>
```

① | メモ: コマンドの使用に関する詳細については、/h スイッチを使用します。

- 2 抽出された内容を、システム上のアクセス可能な場所にコピーします。

- 3 抽出された内容の場所から、次のコマンドを実行して設定を適用します。

```
applyconfig.bat /logfile <A valid and existing folder with write permission>\<A valid file name>
```

例 : applyconfig.bat /logfile C:\log.txt

セットアップまたはシステム パスワードが設定されているシステムに設定を適用するには、次のコマンドを実行します。applyconfig.bat /logfile <A valid and existing folder with write permission>\<A valid file name> "--valsetuppwd= <setup password>"

例 1 : applyconfig.bat /logfile C:\log.txt "--valsetuppwd=password"

例 2 : applyconfig.bat /logfile C:\log.txt "--valsyspwd=password"

デルへのお問い合わせ

- ① **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国 / 地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

- 1 **Dell.com/support** にアクセスします。
- 2 サポートカテゴリを選択します。
- 3 ページの下部にある **国 / 地域を選択** ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。
- 4 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。

サードパーティライセンス

次の表に、サードパーティライセンスの詳細を示します。

表 4. サードパーティライセンス

SI 番号	コンポーネント名	バージョン	ライセンスタイプ
1	mini-XML (mxml1 ライブラリ)	2.6	GNU ライブラリー一般公衆利用許諾書バージョン 2 (LGPL2)
2	miniunz.exe	バージョンなし	zlib ライセンス
3	zlibwapi.dll	1.2.3	zlib ライセンス
4	zip.exe	バージョンなし	zlib ライセンス
5	PiePiece.cs	0	Copyright (c) 2014 AlphaSierraPapa for the SharpDevelop Team
6	getoptl.c	1.15	Copyright (c) 2000 The NetBSD Foundation, Inc.

全般的な免責事項

>> PowerShell PSReadLine モジュールでは、入力したコンソール コマンドはすべてテキスト ファイルに保存されます。このため、comandlet の「Get-Credential」を使用して、パスワードを安全に処理することを強く推奨します。

```
1 $cred = Get-Credential
```

① | **メモ:** ポップアップが表示されるので、ユーザー名とパスワード (「AdminPWD , Dell_123\$」など) を入力します。

```
2 $BSTR = [System.Runtime.InteropServices.Marshal]::SecureStringToBSTR($cred.Password)
```

```
3 $plainpwd=[System.Runtime.InteropServices.Marshal]::PtrToStringAuto($BSTR)
```

```
4 .\ccctk.exe -setuppwd=$plainpwd
```

ライセンスの詳細 :

Mini-XML

Mini-XML ライブラリと付属プログラムは、GNU ライブラリー一般公衆利用許諾書バージョン 2 (LGPL2) の条件に従って提供されています。ただし、次の例外があります。1. Mini-XML ライブラリへのアプリケーションの静的リンクは二次的著作物を構成せず、著者はアプリケーションのソースコードの提供、共有 Mini-XML ライブラリの使用、Mini-XML のユーザーが提供するバージョンに対するアプリケーションのリンクを義務付けられていません。変更されたバージョンの Mini-XML にアプリケーションをリンクする場合は、LGPL2 の第 1 項、第 2 項、第 4 項の条件に従って、Mini-XML に変更を加える必要があります。2. Mini-XML ライブラリにリンクされるプログラムとともに Mini-XML ライセンスの複製物を提供する必要はなく、LGPL2 の第 6 項に従って、プログラムまたはマニュアル内で Mini-XML ライセンスを識別する必要もありません。GNU ライブラリー一般公衆利用許諾書バージョン 2、1991 年 6 月 Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA02111-1307 USA この利用許諾書を一字一句その

まま複製し頒布することはできますが、変更は許可されていません。[これは、ライブラリ GPL の初期リリースバージョンです。正規 GPL のバージョン 2 に合わせるため、2 と番号付けされています。] 前文 ほとんどのソフトウェアの利用許諾はソフトウェアの共有や変更の自由を剥奪するように作成されています。一方、GNU 一般公衆利用許諾書は、ソフトウェアがすべてのユーザーにフリーであることを明確にして、フリーソフトウェアの共有や変更の自由を保証することを目的としています。本利用許諾（ライブラリ一般公衆利用許諾書）は、特別に指定された一部の Free Software Foundation ソフトウェアと、著作者が本利用許諾を使用する決定をしたその他のライブラリに適用されます。本利用許諾をご自身のライブラリに使用することも可能です。フリーソフトウェアのフリーとは、代価ではなく、使用が自由であることを意味します。当財団の一般公衆利用許諾は、フリーソフトウェアの複製を頒布する自由（また、必要に応じてその頒布サービスに課金する自由）、ソースコードを受け取ることや希望すれば入手が可能であること、ソフトウェアを変更してその一部を新規のフリープログラムに使用できること、そして、これらのことができることを知らされていることを確保することを目的としています。これらの権利を守るためには、頒布者がこれらの権利を否定することやこれらの権利の放棄を要求することを禁じる制限を加える必要があります。ソフトウェアを複製したりソフトウェアを変更したりした場合には、これらの制限に基づいて行為者に一定の責任が発生します。たとえば、ライブラリの複製を頒布する場合は、無料または有料にかかわらず、付与されたすべての権利を受領者に与えなければなりません。また、受領者がソースコードを受け取るか入手できることを明確におこななければなりません。ライブラリと他のコードをリンクした場合は、受領者がライブラリに変更を加えて再コンパイルした後にライブラリと再リンクできるように完全なオブジェクトファイルを提供しなければなりません。さらに、本利用許諾に定める条件を示して受領者が有する権利を知らせなければなりません。あなたの権利は次の 2 段階の手順で保護されています。(1) ライブラリを著作権で保護する。(2) 本利用許諾を付与し、ライブラリを複製、頒布、または改変する法的許可を与える。フリーライブラリにはいかなる保証もありません。したがって、個々の頒布者がフリーライブラリについて責任を負わされることはありません。ライブラリが何者かによって改変され、頒布された場合、そのライブラリがオリジナルでないことは受領者に明白であるため、他人によって持ち込まれた問題でオリジナルの作者の評価が傷つけられることはありません。最後に、ソフトウェア特許は、フリープログラムの存続に絶えず脅威を与えています。フリープログラムの頒布者が個別に特許使用許諾権を取得し、そのプログラムを実質的にプロプライエタリソフトウェアに変形してしまう危険は回避しなければなりません。そのために、当財団はいかなる特許もすべての利用者に無償でライセンスされなければならず、そうでない場合はまったくライセンスされるべきではないことを明確にしています。ライブラリを含むほとんどの GNU ソフトウェアについては、ユーティリティプログラム向けに策定された正規 GNU 一般公衆利用許諾書で規定されています。本利用許諾（GNU ライブラリ一般公衆利用許諾書）は、特定の指定されたライブラリに適用されます。本利用許諾は、正規 GNU 一般公衆利用許諾書とはまったく異なりますので、最後までお読みください。また、正規の GNU 一般公衆利用許諾書と同じ内容は含まれていないとお考えください。当財団が一部のライブラリに対して別個の公衆利用許諾書を適用するもう一つの理由は、それらのライブラリでは、プログラムへの変更や追加と、プログラムの単なる使用との違いが不明確だからです。プログラムをライブラリにリンクし、そのライブラリを変更しなかった場合、それはある意味ではライブラリの単なる使用であり、ユーティリティプログラムやアプリケーションプログラムを実行することとよく似ています。しかし、理論的および法的には、リンクされた実行ファイルは結合された著作物、つまり元のライブラリからの派生物であり、正規一般公衆利用許諾契約書ではそういうものとして取り扱われます。このように区別があいまいであるために、ライブラリに正規一般公衆利用許諾書を使用しても、ソフトウェアの共有は進みませんでした。大半の開発者はライブラリを使用していなかったからです。当財団は、条件を緩めることで共有が促進されると判断しました。ただし、有料プログラムのリンク制限を緩めると、それらのプログラムのユーザーからフリーライブラリ自体が持つすべての恩恵を奪うこととなります。本ライブラリ一般公衆利用許諾書は、有料プログラムの開発者にフリーライブラリの使用を許可すると同時に、それらの有料プログラムの使用者が、そのプログラムに組み込まれているフリーライブラリを変更する自由を侵されないようにすることを目的としています（この目的は、ヘッダーファイルの変更については達成されていませんが、ライブラリの実際の機能の変更については達成されています）。これによってフリーライブラリの開発が迅速化されることを望みます。複製、頒布、および改変についての諸条件の詳細は以下のとおりです。「ライブラリに基づく著作物」と「ライブラリを使用する著作物」の違いに十分に注意してください。前者にはライブラリから派生したコードが含まれています。一方後者は、その実行にあたってライブラリと結合する必要があります。ライブラリには、本ライブラリ一般公衆利用許諾契約書ではなく、正規の一般公衆利用許諾書が適用されている可能性があることに注意してください。GNU ライブラリ一般公衆利用許諾書、複製、頒布、および改変に関する利用規約本利用許諾契約は、著作権所有者または権限を有するその他の関係者によって、本ライブラリ一般公衆利用許諾書（「本利用許諾」）の定める条件下で頒布することを許可する旨の告示が付されたすべてのソフトウェアライブラリに適用されます。被許諾者は「あなた」と表現されます。「ライブラリ」とはアプリケーションプログラムとリンクして実行ファイルを作成するのに便利ように開発されたソフトウェア関数やデータの集合のことです（これらのアプリケーションプログラムにはこれらのいくつかの関数やデータが使用されます）。以下で「ライブラリ」と言及する場合は、本利用許諾の条件に従って頒布されたかかるソフトウェアライブラリまたは著作物を指しています。「ライブラリに基づく著作物」とは、ライブラリまたは著作権法下で派生物と見なされるものを意味します。すなわち、ライブラリまたはその一部が含まれた著作物であり、一字一句同じであるか改変が加えられたもの、あるいは別の言語に明確に翻訳されたもののいずれかを指します（以下、翻訳は「改変」という用語の中に制限なく含まれます）。著作物の「ソースコード」とは、それに改変を加えるうえで都合のよい著作物の形式のことです。ライブラリの完全なソースコードとは、含まれているすべてのモジュールに対するソースコード全体、関連付けられたすべてのインタフェース定義ファイル、およびライブラリのコンパイルやインストールを制御するためのスクリプトのことです。複製、頒布、改変以外の行為は本利用許諾で規定されていません。それらは本利用許諾の対象外です。ライブラリを使用してプログラムを実行する行為に制限はありません。また、そのようなプログラムの出力結果は、その内容がライブラリに基づく著作物に該当する場合のみ本利用許諾の対象となります（プログラムを記述するためにツールでライブラリを使用する場合は無関係です）。これに該当するかどうかは、ライブラリが何をするか、およびライブラリを使用するプログラムが何をするかに依存します。1. あなたはライブラリの完全なソースコードの一字一句違わない複製物を、媒体に関係なく、受け取った通りの形で複製または頒布することができます。ただし、個々の複製物に適切な著作権表示と保証の免責条項を目立つよう適切に付記すること、本利用許諾および一切の保証の不在に関するすべての通知をそのまま維持すること、また、本利用許諾の複製物をライブラリとともに頒布することが条件になります。あなたは複製物を譲渡するという物理的な行為に対して手数料を課すことができます。また、あなたの判断で、手数料を受け取る代わりに保証を提供することもできます。2. あなたは、ライブラリの複製物またはその一部を改変してライブラリに基づく著作物を作成し、かかる改変物または著作物を上記第 1 項の定める条件下で複製または頒布することができます。ただし、以下の条件をすべて満たす必要があります。a) 改変した著作物は、それ自体がソフトウェアライブラリでなければならない。b) 改変したファイルに、

あなたがファイルを変更したこと、および変更日をよく分かるように記載しなければならない。c) あなたは著作物全体について、本利用許諾の条件に従ってすべての第三者に無償で利用許諾を与えなければならない。d) 改変したライブラリの機能が、その機能を使用するアプリケーションプログラムによって提供される関数またはデータテーブルを参照する場合(実行時に機能が引数として渡される場合を除く)、あなたはアプリケーションがそのような関数やテーブルを提供しないときでも、その機能が動作し、機能のどの部分についても目的に適った処理が実行されるよう十分に誠実な努力をしなければならない(たとえば、ライブラリの平方根を計算する関数には、完全に明確かつアプリケーションから独立した目的があります。したがって上記第 2d 項に従い、平方根関数については、アプリケーションが提供する関数またはテーブルの使用が必須であってはなりません。つまり、アプリケーションがそれらを提供しなくても、平方根関数は平方根を計算できなければなりません)。これらの必要条件は改変した著作物全体に適用されます。著作物の特定可能な部分がプログラムの派生物ではなく、その部分が独立した別個の著作物であると合理的に考えられる場合、あなたがかかる部分を別の著作物として頒布すると、その部分には本利用許諾とその条件は適用されません。しかし、あなたがプログラムに基づく著作物全体の一部としてかかる部分を頒布すると、頒布物全体が本利用許諾の条件に従わなければなりません。本利用許諾が他の被許諾者に与える許可は著作物全体に及び、著作者に関係なく、各部分のすべてが保護されます。本項の意図は、そのすべてをあなたが作成した著作物に対して権利を主張したり、あなたの権利に異議を唱えたりすることではありません。本項の意図は、ライブラリに基づく派生物または集合著作物の頒布を管理する権利を行使することにあります。さらに、ライブラリに基づかないその他の著作物をライブラリ(またはライブラリに基づく著作物)とともに1つのストレージまたは頒布媒体に集めただけでは、その他の著作物は本利用許諾の対象にはなりません。3. あなたは、ライブラリの特定の複製物に対し、本利用許諾ではなく正規 GNU 一般公衆利用許諾書の条件を適用することもできます。その場合、あなたは本利用許諾に言及するすべての通知を変更して、通知が本利用許諾ではなく正規 GNU 一般公衆利用許諾書バージョン 2 に言及するようにしなければなりません(正規 GNU 一般公衆利用許諾書のバージョン 2 よりも新しいバージョンが発行されている場合、あなたは自身の必要に応じてそのバージョンを代わりに指定することができます)。その他のいかなる変更もこれらの通知に加えてはいけません。特定の複製物に対して一度この変更を行うと、その複製物を元に戻すことはできません。したがって、その複製以降のすべての複製物と派生著作物には、正規 GNU 一般公衆利用許諾契約書が適用されることとなります。この選択肢は、ライブラリのコードの一部をライブラリ以外のプログラムに複製する場合に有益です。4. あなたは上記第 1 項および第 2 項の条件に従って、ライブラリ(またはその一部、あるいは第 2 項に定める派生物)をオブジェクトコードまたは実行ファイル形式で複製または頒布することができます。ただし、対応する完全かつ機械可読のソースコードを添付すること、また、ソフトウェアの交換で一般的に使用される媒体を使用して、上記第 1 項および第 2 項の条件に従って頒布することが条件となります。指定された場所から複製できるようアクセスを許可することでオブジェクトコードが頒布される場合、ソースコードもそれと同じ場所から複製できるよう同等のアクセスを許可すれば、第三者がオブジェクトコードとともにソースを複製することを強制されていなくても、ソースコード頒布の要件は満たされます。5. ライブラリのいかなる部分の派生物も含まれていないが、ライブラリとコンパイルまたはリンクすることで動作するように設計されたプログラムは「ライブラリを使用する著作物」と呼ばれます。かかる著作物は、単体ではライブラリの派生著作物ではないため、本利用許諾の対象外です。しかし、「ライブラリを使用する著作物」をライブラリにリンクして作成された実行ファイルは、「ライブラリを使用する著作物」ではなく、ライブラリの派生物となります(ライブラリの一部が含まれているため)。したがって、その実行ファイルは本利用許諾の対象となります。第 6 項は、かかる実行ファイルの頒布の条件について説明しています。「ライブラリを使用する著作物」がライブラリの一部であるヘッダーファイルの要素を使用する場合、ソースコードがライブラリの派生物でなくても、著作物のオブジェクトコードはライブラリの派生物である可能性があります。これに該当するかどうかは、ライブラリがなくても著作物にリンクできる場合や、著作物自体がライブラリの場合には極めて重要になります。これに該当するかどうかのしきい値は、法的には正確に定義されていません。このようなオブジェクトファイルが数値パラメータ、データ構造のレイアウトおよびアクセサ、小さいマクロおよびインライン関数(長さが 10 行以下)のみを使用する場合、法的に派生物と見なされるかどうかにかかわらず、オブジェクトファイルの使用に制限はありません(ただし、このオブジェクトコードに加えてライブラリの一部が含まれている実行ファイルは第 6 項の対象となります)。そうではなく、著作物がライブラリの派生物である場合、あなたは第 6 項の条件に従って著作物のオブジェクトコードを頒布することができます。このような著作物を含む実行ファイルは、ライブラリそのものと直接リンクしているかどうかにかかわらず、第 6 項の対象となります。6. 上記の各項の例外として、あなたは「ライブラリを使用する著作物」をライブラリにコンパイルまたはリンクしてライブラリの一部を含む著作物を作成し、その著作物をあなたが指定する条件の下で頒布することができます。ただし、その条件はカスタマが使用するために著作物を改変することを許可し、またそのような改変をデバッグするためのリバースエンジニアリングを許可していなければなりません。あなたは著作物の個々の複製物に、著作物の中でライブラリが使用されていること、その使用が本利用許諾の対象となることを明記した通知を付す必要があります。あなたは本利用許諾の複製物を 1 部提供しなければなりません。著作物の実行時に著作権情報が表示される場合、あなたはその中にライブラリの著作権表示と、ユーザーに本利用許諾の複製物の所在を示す参照文を含める必要があります。また、あなたは次のいずれか 1 つを実施しなければなりません。a) 著作物に、ライブラリに対応する完全かつ機械可読のソースコードを添付します。これには著作物のすべての改変点(それらの改変点は上記第 1 項および 2 項の条件に従って頒布すること)も含まれます。著作物がライブラリにリンクされた実行ファイルである場合は、完全かつ機械可読の「ライブラリを使用する著作物」をオブジェクトコードあるいはソースコードとして著作物に添付し、ユーザーがライブラリを改変した後にそれを再リンクし、改変ライブラリが含まれた改変実行ファイルを作成できるようにします(ライブラリの定義ファイルの内容を変更するユーザーは、改変された定義を使用するアプリケーションを必ずしも再コンパイルできなくてもよいと解釈されています)。b) 当該ユーザーに対して上記の第 6a 項に定める提供物を、頒布に要するコストを上回らない額の手数料で提供できることを記載した、最低 3 年間有効な書面を添付します。c) 指定された場所から複製できるようアクセスを許可することで著作物が頒布される場合、それと同じ場所から上記で指定された提供物をコピーできるよう、同等のアクセスを許可します。d) ユーザーが指定された提供物の複製物をすでに受け取っているか、あるいはあなたがユーザーに複製物をすでに送っているかを確認します。実行ファイルの場合、「ライブラリを使用する著作物」には、実行ファイルを再作成するために必要なすべてのデータおよびユーティリティプログラムを含める必要があります。ただし特殊な例外として、実行ファイルが動作するオペレーティングシステムの主要な構成要素(コンパイラやカーネルなど)とともに(ソースまたはバイナリ形式で)通常頒布されるものは、その構成要素自体が実行ファイルに付随しない限り、頒布物の中に含まれている必要はありません。この必要条件は、オペレーティングシステムに通常付随しない他の独占的なライブラリのライセンスの制限と矛盾する可能性があります。このような矛盾は、あなたが頒布する実行ファイルで、かかる独占的なライブラリとそれ以外のライブラリの両方を一緒に使用することができないことを意味します。あなたは、ライブラリに基づく著作物であるライブラリの機能と、本

利用許諾の対象外である他のライブラリ機能を1つのライブラリに併存させることができ、そのような結合ライブラリを頒布することもできます。ただし、ライブラリに基づく著作物とその他のライブラリ機能を個別に頒布することが、別の方法で許可されている必要があります。また次の2つの項目を実行しなければなりません。a) 結合ライブラリに、他のどのライブラリ機能とも結合しておらず、当該のライブラリに基づく著作物の複製物を添付します。これは上記の各項の条件に従って頒布されなければなりません。b) 結合ライブラリに、その一部がライブラリに基づく著作物であるということと、当該著作物の結合されていない形式の添付場所を示した明確な通知を記載します。8. あなたは本利用許諾において明確に提示された以外の方法でライブラリの複製、改変、サブライセンス、リンク、または頒布を行ってはなりません。提示された以外の方法でライブラリの複製、改変、サブライセンス、リンク、または頒布する行為はいずれも無効であり、このような行為があった場合、本利用許諾に基づくあなたの権利はただちに停止されます。しかし、本利用許諾に基づいて複製物または権利をあなたから取得した当事者については、本利用許諾に完全に従っている限り利用許諾が終了することはありません。9. あなたは本利用許諾を承認する必要はありません。なぜなら本利用許諾に署名していないからです。しかし、あなたに対してライブラリまたはその派生著作物の改変または頒布を許可するものは本利用許諾以外にありません。あなたが本利用許諾を承認しない場合、これらの行為は法によって禁じられます。したがって、あなたがライブラリ（またはライブラリに基づく著作物）を改変または頒布することにより、あなたはそれを行うために本利用許諾を承認し、ライブラリまたはライブラリに基づく著作物の複製、頒布、改変に関する諸条件をすべて受け入れたことを示したものと見なされます。10. あなたがライブラリ（またはライブラリに基づく著作物）を再頒布するたびに、その受領者は元の利用許諾者から、本利用許諾の条件の対象となっているライブラリを複製、頒布、リンク、または改変するための利用許諾を自動的に取得するものとします。あなたは、受領者がここで認められた権利を行使することに関して、これ以上のいかなる制限も課してはなりません。あなたには第三者が本利用許諾に従うことを強制する責任はありません。11. 裁判所の判決、特許侵害、あるいはその他の理由（特許関係に限らない）による申し立ての結果、あなたに本利用許諾の条件と矛盾する制約が課されたとしても（裁判所命令や契約などのいずれによるかは問わない）、それによってあなたが本利用許諾の条件を免除されることはありません。あなたが本利用許諾に基づく義務と、関係するその他の義務を同時に満たす形でライブラリを頒布できない場合、結果としてあなたはライブラリを一切頒布できなくなります。たとえば、あなたから直接または間接的に複製物を受け取ったすべての人が、ライブラリを使用料無料で再頒布することを特許使用許諾によって禁じられている場合、あなたがその制約と本利用許諾の両方を満たすには、ライブラリの頒布を完全に中止するしかありません。本項の一部が特定の状況下で無効または適用不可能な場合でも、残りの部分の効力に影響はなく、また、その他の状況では本項全体が適用されるものとします。本項の目的は、特許やその他の財産権を侵害したり、このような権利の主張の効力に異議を唱えたりするようあなたに勧めることではありません。本項の唯一の目的は、公衆利用許諾によって実現されているフリーソフトウェア頒布システムの完全性を維持することです。多くの人々が、フリーソフトウェア頒布システムが一貫性をもって適用されているという信頼に基づき、このシステムを介して頒布されるさまざまなソフトウェアに多大な貢献をしてきました。しかし、どのようなシステムを介してソフトウェアを頒布するかを決めるのは著作者 / 提供者であり、利用許諾者が選択を押しつけることはできません。本項は、本利用許諾のその他の部分が帰結するところを徹底的に明確にすることを意図しています。12. ライブラリの頒布または使用が、ある国において特許または著作権で保護されたインタフェースによって制限されている場合、そのライブラリに本利用許諾を適用した元の著作権所有者は、それらの国を排除した明確な地理的頒布制限を追加し、排除されていない国の中やそれらの国々の間でのみ頒布が許可されるようにすることができます。その場合、その地理的頒布制限は、本利用許諾の本文に記載されているものと同様に適用されます。13. Free Software Foundation は、改訂バージョンまたは新バージョンのライブラリ一般公衆利用許諾書を随時発行します。新バージョンは、その精神においては現行バージョンと同じですが、新たな問題や懸念を解決するために、細部は異なる可能性があります。各バージョンには区別するためのバージョン番号が付けられています。ライブラリで、適用される本利用許諾のバージョン番号と「それ以降の任意のバージョン」が指定されている場合、あなたは指定されたバージョンまたは Free Software Foundation が発行したそれ以降の任意のバージョンを選択できます。ライブラリで利用許諾のバージョン番号が指定されていない場合は、これまでに Free Software Foundation が発行したバージョンの中から任意に選択してかまいません。14. ライブラリの一部を、頒布条件が本利用許諾と矛盾する他のフリープログラムに統合したい場合は、著作者に連絡をして許可を求めてください。Free Software Foundation が著作権を保有するソフトウェアについては Free Software Foundation にご連絡ください。当財団はこのような場合に例外を設けることがあります。当財団は、Free Software Foundation のフリーソフトウェアのすべての派生物がフリーな状態で保たれること、およびソフトウェアの共有と再利用が幅広く促進されることの2つの目標を指針にして決定を下します。無保証 15. ライブラリは対価なしに使用が許可されるため、適用法が認める限りにおいて、ライブラリに関するいかなる保証も存在しません。書面で別途指定されない限り、著作権所有者またはその他の当事者はライブラリを「現状のまま」提供し、明示または黙示を問わず、商品性、特定目的への適合性を含む（ただしこれらに限定されない）一切の保証を伴いません。ライブラリの品質と性能に関するすべてのリスクはあなたに帰属します。ライブラリに欠陥があると判明した場合、あなたは必要な修理、交換、または補修に要するすべてのコストを負担するものとします。16. 適用法で義務付けられている場合、または書面による合意がある場合を除き、著作権所有者、または上記で許可されたとおりに本ライブラリを改変または再頒布、もしくはその両方を行うその他のすべての当事者は、本ライブラリの使用または使用できないことに起因する付随的、特殊的、偶発的、または結果的に生じるあらゆる損害（データの紛失、データの不正確なレンダリング、あなたもしくは第三者が被る損失、またはその他のソフトウェアとの併用時における本ライブラリの動作不全を含むが、これらに限定されない）について、かかる著作権所有者またはその他当事者がこのような損害の可能性を知らされていた場合でも、一切責任を負わないものとします。許諾条件の終了 付録：これらの条件を新しいライブラリに適用する方法 新しいライブラリを開発し、可能な限り最大限一般ユーザーに利用してもらうことを希望する場合は、誰でも再頒布あるいは改変できるフリーソフトウェアにすることを勧めます。それは、これらの条件に従って（または、通常の一般公衆利用許諾書の条項に従って）再頒布を許可することで実現できます。これらの条件を適用するには、ライブラリに以下の告知を添付します。告知は各ソースファイルの冒頭に添付するのが、保証の除外を効果的に伝えるために最も安全な方法です。各ファイルには、少なくとも「著作権」の行と、全文がある場所を示すポイントを配置する必要があります。<ライブラリ名と簡単な内容の説明を1行に記した文> Copyright (C) <year> <name of author> このライブラリはフリーソフトウェアです。あなたはこれをフリーソフトウェア財団によって発行された GNU ライブラリ一般公衆利用許諾書のバージョン 2 または（あなたの選択で）以降の任意のバージョンの条件のもとで、再頒布および/または改変することができます。このライブラリは有用であることを期待して頒布されますが、いかなる保証もなく、商品性、特定目的に対する適合性への黙示の保証もありません。詳細については、GNU ライブラリ一般公衆利用許諾書を参照してください。あなたはこのライブラリとともに、GNU ライブラリ一般公衆利用許諾書のコピーを受け

取っているはず。受け取っていない場合は、Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA まで書面にてお問い合わせください。電子メールおよび通常の郵便であなたに問い合わせる方法についての情報も書き加えてください。あなたは必要に応じて、雇用主(あなたがプログラマーとして雇用されている場合)または学校に対し、ライブラリに関する「著作権放棄声明」への署名を要請する必要があります。例を次に示します。名称は変更してください。「Yoyodyne, Inc. は、James Random Hacker が作成したライブラリ「Frob」(ノブを微調整するライブラリ)に関する著作権法上のすべての権利を放棄します。<Ty Coon の署名>、1990 年 4 月 1 日 Ty Coon、副社長」それだけです。

Miniunz

Copyright (c) <"year"> <"copyright holders">

本ソフトウェアは、明示的または黙示的な保証なく、「現状のまま」で提供されます。著作者は、本ソフトウェアの使用によって生じるいかなる損害に対しても法的責任を負わないものとします。次の制限事項を前提に、商用用途を含め、任意の目的で本ソフトウェアを使用すること、および自由に本ソフトウェアを改変および再頒布することが、誰にでも許可されています。

- 1 本ソフトウェアの生成元に関する虚偽の表示は禁止されています。あなたが元のソフトウェアを記述したと主張することはできません。本ソフトウェアを製品内で使用する場合、製品マニュアル内に典拠を含めることが望ましいですが、必須ではありません。
- 2 改変したソースバージョンは該当箇所を明確にマークする必要があります。誤って元のソフトウェアとして見なされることがあってはなりません。
- 3 この告知は、ソースの頒布から削除または変更することはできません。

Zlibwapi

Copyright (c) <"year"> <"copyright holders">

本ソフトウェアは、明示的または黙示的な保証なく、「現状のまま」で提供されます。著作者は、本ソフトウェアの使用によって生じるいかなる損害に対しても法的責任を負わないものとします。次の制限事項を前提に、商用用途を含め、任意の目的で本ソフトウェアを使用すること、および自由に本ソフトウェアを改変および再頒布することが、誰にでも許可されています。

- 1 本ソフトウェアの生成元に関する虚偽の表示は禁止されています。あなたが元のソフトウェアを記述したと主張することはできません。本ソフトウェアを製品内で使用する場合、製品マニュアル内に典拠を含めることが望ましいですが、必須ではありません。
- 2 改変したソースバージョンは該当箇所を明確にマークする必要があります。誤って元のソフトウェアとして見なされることがあってはなりません。
- 3 この告知は、ソースの頒布から削除または変更することはできません。

Zip (郵便番号)

Copyright (c) <"year"> <"copyright holders">

本ソフトウェアは、明示的または黙示的な保証なく、「現状のまま」で提供されます。著作者は、本ソフトウェアの使用によって生じるいかなる損害に対しても法的責任を負わないものとします。次の制限事項を前提に、商用用途を含め、任意の目的で本ソフトウェアを使用すること、および自由に本ソフトウェアを改変および再頒布することが、誰にでも許可されています。

- 1 本ソフトウェアの生成元に関する虚偽の表示は禁止されています。あなたが元のソフトウェアを記述したと主張することはできません。本ソフトウェアを製品内で使用する場合、製品マニュアル内に典拠を含めることが望ましいですが、必須ではありません。
- 2 改変したソースバージョンは該当箇所を明確にマークする必要があります。誤って元のソフトウェアとして見なされることがあってはなりません。
- 3 この告知は、ソースの頒布から削除または変更することはできません。

PiePiece

// Copyright (c) 2014 AlphaSierraPapa for the SharpDevelop Team // //以下に定める条件に従い、このソフトウェアおよび関連文書ファイル(「ソフトウェア」) //の複製を取得するすべての人物に対し、本ソフトウェアの使用、複製、変更、統合、公開、配布、//サブライセンス付与、および / または本ソフトウェアの複製の販売、ならびに本ソフトウェアを//提供する相手にも同様の行為を許可する権利を含む(ただし、必ずしもこれらに限定されない) //本ソフトウェアを取り扱う許可を、制限を受けることなく、無償で付与します。// //上記の著作権表示および本許諾通知を、本ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に//記載するものとします。// //本ソフトウェアは「現状のまま」提供され、明示的か黙示的かを問わず、商品性、//特定目的への適合性、および非侵害性を含む(ただし、必ずしもこれらに限定されない) //一切の保証を伴いません。著作者または著作権所有者は、い

かなる場合も、本ソフトウェア、または//本ソフトウェアの使用もしくはその他取り扱いに起因または関連するいかなる請求、//損害、もしくはその他責任に対して、それらの根拠が契約行為、不法行為または//その他の行為であるかを問わず、一切の責任を負わないものとします。

getoptl

/*- * Copyright (c) 2000 The NetBSD Foundation, Inc. * All rights reserved.* *本コードは、Dieter Baron 氏および Thomas Klausner 氏が NetBSD Foundation*に提供したソフトウェアに派生します。* *ソースコード形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、*変更の如何にかかわらず、以下の条件が満たされる場合に限り*許可されます。*1.ソースコードの再配布物に、上記の著作権情報、*条件リスト、下記免責情報が含まれていること。* 2.バイナリ形式で再配布する場合、上記の著作権情報、*条件リスト、下記免責条項が、配布物に付属のドキュメントなどの*資料に含まれていること。* 3.本ソフトウェアの機能あるいは使用方法について言及している広告物には、*次の典拠を含める必要があります：*「本製品には、NetBSD Toolkit での使用のために NetBSD Foundation, Inc.*およびその提供者によって開発されたソフトウェアが含まれています」。* 4.NetBSD Foundation の名称または貢献者の名前を、*書面による事前の許可なく、本ソフトウェアの派生製品を推薦または*宣伝する目的で使用することはできません。* *本ソフトウェアは、NetBSD Foundation Inc.および貢献者によって*「現状のまま」提供されており、明示または黙示を問わず、*商品性、特定目的への適合性に対する黙示的な保証（ただし、*必ずしもこれらに限定されない）は一切否認します。いかなる場合も、Foundation またはその寄稿者は、原因*または責任上の理論を問わず、また契約行為、無過失責任、*不法行為（過失その他を含む）によるものを問わず、本ソフトウェア*の使用から生じる直接的、間接的、間接的、特殊的、懲罰的、または*結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の喪失、データ*または利益の損失、事業の中断による損害を含むが、これらに限定されない）*について、たとえかかる損害の可能性について知らされていたとしても、*一切責任を負いません。*/